

民家園：旧東しな家住宅

旧東しな家住宅は、1967年に交通の便が悪く、電気などの設備が整っていないために廃村となった加須良の集落から、集落から約15キロの場所にある合掌造り民家園に移築されたものである。この家は、加須良のお寺の住職を代々補佐していた東しな家のもので、19世紀後半に建てられたと考えられている。典型的な合掌造りの農家で、土台と1階部分は専門の大工が作り、格子天井から上は一般の村人が組み立てているという。また、家畜を飼っていた玄関脇の土間や、中央に囲炉裏のある広い居間、一番奥に仏壇のある奥座敷などが特徴的である。